

11月6日(月)

代償がなんであれ

聖書朗読 マタイ 10 : 34~39

確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。
Ⅱテモテ 3:12

迫害。それはタルソのサウロが「ステパノを殺すことに賛成」(使徒 8:1) したことから始まり、そしてそれからエルサレムのクリスチャンたちは「ユダヤとサマリヤの諸地方に」(使徒 8:1) 散らされました。それから巧妙にも「ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとして、その手を伸ばし、ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。」(使徒 12:1, 2) そして迫害は続けられました。ヘブル人への手紙の著者は、信仰を持っている兄弟姉妹に対してのあらゆる種類の恐ろしい死とひどい扱いについて語り、「この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした」(ヘブル 11:38) と付け加えました。

私たちは、それがその時代で終わらなかったことを知っています。歴史を通じて、特に宗教改革の間に、イエス様を信じることに對してたくさんの人が高い代償を払いました。現在でさえ、中国や、アフリカや、多くのイスラム教国において、イエス様を知りクリスチャンとして生きることは、彼らの命そのものを賭けることです。

迫害。それはアメリカや日本に住む私たちにとってはなじみのないものかもしれませんが、しかし時代は変わっていきます。いつか、この場所でさえ、心からイエス様を信じるという「旗を掲げ」、イエス様の真理に立ち、イエス様への忠誠を表明することが、大きな問題を引き起こすかもしれません。もしかしたら私たちは「私たちの格闘は・・・この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するもの」(エペソ 6:12) であるということを忘れてはならないかもしれません。ああ、主よ……私たちが強く……敬虔で……準備万端でいられるように助けてください!

讚美歌 380

祈り お父様、私が人生を楽しみすぎて、あなたを知ること、あなたにあって生きることをないがしろにしてしまっていることをお赦し下さい。私が力強くイエス様の側に立ち、その代償が何であれ、イエス様にあって、生きることが出来ますようにして下さい。イエス様の御名によって祈ります。アーメン!

ベン・メアネス
テキサス州 アマリロ

今日の日

2023年11月6日～11月12日

翻訳 鈴木 慈久

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月7日(火)

問題の核心

聖書朗読 マタイ 18:21~35

力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

箴言 4:23

あわれみのないしもべのたとえ話は、私たち一人ひとりの本性を暴露するものです。それは、ペテロの質問から始まりました。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。」私たちは赦すことができるのを知っていますが、ペテロと同じくそれをやりすぎたくはないと思っています。

しかしイエス様はペテロの、そして私たちの赦す意志と同じように掛け算の能力も試しました。イエス様は七十七回か、あるいは七を七十倍するまで赦しなさいと言いました。

この話は私たちが赦した回数を数えておくことはできないほど赦しなさいということを行っています。それは私たちに向けた神様の態度であり、神様は私たちが別の誰かに対して同じ態度を取ることを期待しておられます。この間に続いて、イエス様は多くの負債を赦されたのに、はるかに少ない負債を赦そうとしなかったしもべのたとえ話をされました。

私たちもしばしば、自分たちの罪の大きさからどうにか目を逸らし、それでいながら兄弟の罪の大きさを誇張している自分に気づくことがあります。このたとえ話の状況の不均衡さに気づいていなかったのは赦さなかった本人だけだったということも心に留めておかなければなりません(マタイ 18:31)。

最終的に、私たちが赦すのを拒み続ける時、イエス様は私たちにそれではよくないことを示されます。あわれみのないしもべは、自分を赦すことにだけに捕らわれて、兄弟を赦すことができないとき、最終的には、自分の負債を支払わなければならないります。

讚美歌 273B

祈り 親愛なるお父様、キリストの赦しによって私を祝福して下さることに感謝します。私の心を、あなたが私を赦して下さったように他者を赦すという祝福に対して心を開くことによって、安全に保ってください。

ジャニス・グリーンリーフ
アラバマ州 ハンツヴィル

11月8日(水)

小さなこと

聖書朗読 マタイ 25:31-46

山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値打ちもありません。
I コリント 13:2

人生の重大な出来事はしばしば小さな出来事と隣り合わせです。例えば、偉大な探検家であるコロンブスの息子がお腹を空かせたので、アンダルシアの修道院のところで立ち止まりパンを乞うことになりました。イザベラ女王の相談役であったその修道院の次長は、その冒険的な先導者の話を聞いて女王への謁見の際にそのことを話し、そのことがコロンブスとアメリカ発見に女王が出資するという結果をもたらしました。すべては息子が修道院の門の前でお腹を空かせたから起きたことなのです。

私たちは人生の中の大きな出来事と小さな出来事を本当に見分けることができるのでしょうか？ その時は大きなことだと思っていたことがとても小さなことかもしれませぬし、小さなことだと思っていたことが結果的に実はとても大きなことかもしれませぬ。

ある考え、言葉、微笑み、しかめっつら、あるいはある行為を行なうことは小さなことかもしれませんが、善悪のためにどちらの行動を選ぶかは非常に重要なことです。

イエス様は「わたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタイ 25:40)と言われました。この聖書箇所は彼らが食べ物や、飲み水や、服を与え、病気の時に助け、独りぼっちのときに尋ねたと言っています。小さなことが大きな意味を持つのです。イエス様の愛と恵みは、これらの小さなことを通じて広がることなのです。

讚美歌 II26

祈り お父様、私たちが周りの人たちの必要に気を掛けることのできる人間でいられるように助けてください。私たちがそれらの必要を見つけて、あなたへの愛のゆえに行動することができるように祈ります。イエス様の御名により。アーメン。

エディ・C・レウイス
ミシシッピ州 オリーブブランチ

11月9日(木)

お父様の答えが「ノー」だった時

聖書朗読 マタイ 26:36-39

キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。ピリピ2:8

神様のひとり子であられるイエス・キリストは、恐ろしい死と、地獄のあらゆる力にご自身を打ち勝たせようという闘いの場面に直面していました。平和なように見えるゲツセマネの園の静けさをかき消すほどの内なる苦悶の中で祈っていました。御子は父なる神に向かって「できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と願い、そしてその答えは「ノー」でした。

私たちもまた、祈ります。私たちの苦痛はゲツセマネの園のキリストのそれには及びませんが、しかし私たちが非常に厳しいあがきに直面している時に感じる恐れや心細さを表すのに、苦痛という言葉は決して強すぎる表現ではありません。時に、私たちは祈りに対して、自分たちが求めているまさにその答えを受け取ることがあります。しかしながら、人間の弱さのゆえに、私たちはしばしば神様の答えが自分の求めているものではなかったことに気づくことがあります。

私たちは継続して、敬虔に祈ったのではなかったのでしょうか？ なぜその答えなのでしょう？ しかし待ってください！ これは祈りであり、魔法ではありません。信仰であり、自己欺瞞ではありません。私たちの父なる神とその御子を覚えましょう。ゲツセマネを覚えましょう。「ノー」という答えが世界の救いのための「イエス」であったことを覚えましょう。そしてそれはキリストのもっとも深い願い、すなわち父なる神の御心となるようにという願いに対しての「イエス」だったのです。

私たちは絶えることなくさらに祈り、そして父なる神へのより大きな確信をもってさらに多くを願いましょ。しかし私たちは同時に気づかなければなりません、私たちの主への確信は祈りそのもののうちにあつたのではなく、祈りを捧げた父なる神の深くて変わる事のない愛のうちにあつたのだということ。

讚美歌 285

祈り 親愛なる主よ、あなたは私たちのお父様であり、あなたは私たちを完全に愛しておられ、私たちの祈りをいつも聞いていてくださいます。その答えがたとえ、「ノー」だったとしても、イエス様の御名によって。アーメン。

カーティス・K・シェルバーン
テキサス州ムルショー

11月10日(金)

神様の御心のための捧げもの

聖書朗読 マタイ 27:27~40

あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。ローマ 12:1

世界におけるクリスチャンの困難、差別、拷問、あるいは死についてさえ報じる昨今のニュースに私はぞっとすることがあります。彼らは、選択を強要される状況に置かれた時、神様とその御子であるイエス様に対する自らの信仰を否定するより、むしろ進んで大なる困難を受けることを選びました。もし自分が同じ運命に直面したら、自分はどうか反応するだろうかとか熟考せずにはいられません。私は十分に強く、信仰と、神様の子どもとしての約束に委ねることができるでしょうか？

イエス様は挑発され、嘲笑され、唾を吐きつけられ、茨の冠を被せられ、そして恐ろしく苦痛に満ちた死に向かって自らの十字架を背負って歩くことを強要されました。自分の苦痛を和らげてくれるであろう酸いぶどう酒を呑み、代わりに完全な意識とはっきりした心で自らの死に向かわれました。ご自身を救って十字架から降りるよりも、イエス様はむしろご自身がいつもしていたこと——父なる神の御心に従うことを選んだのです。

私たちのうちの誰かが、これほどの選択をする必要に駆られることがあるかは非常に疑わしいでしょう。私たちの選択した結果の延長線上で、選んだ決断によって不利益を被ることがないならば、自分たちをクリスチャンと呼ぶことは難しいことではありません。神様は人生をかけて御心に従う者となるように、そしてどんな事態に直面しても神様に従うことを求められるよう準備をしておくように私たちを招いておられます。私たちがそれを達成できるように神様が助けてくださることを知ることを通じて、私たちが皆神様の御心を求め、受け入れることを祈ります。

聖歌 588

祈り 親愛なる主よ、それがどんなことを要求するものであっても、私たちが信仰に生き抜くことができるように勇気をお与えください。私たちが神様の御心を求め、そして従うために自分の最善を尽くすことができるように力づけてください。イエス様の御名によって。アーメン。

ランディ・ロバーツ
ニューメキシコ州 グランツ

